

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

納税は未来への応援歌

柏市立柏第二中学校 第三学年 岩立 大樹

私の「税金」へのイメージ、それは国民の義務の一つであり重要なものだと思う一方、何をするにも税金がかかるというマイナスなイメージがあった。

私は標準より小さく産まれ、今も身長が低く、体重も少ない。小食が原因でその内伸びるだろうと思っていた。第二次成長期で周りの男子がどんどん大きくなっていく中、伸び率が落ちてきてしまい、専門の病院を受診した。そこで驚きの事実を知らされた。

まず、骨年齢が進んで閉じかけておりもうあまり伸びないということ、検査の結果が保険基準をクリアしなければ自費治療となるが費用がとても高額になるということだった。更に検査を重ねてみると、成長ホルモンの分泌量の値や出生時の大きさ、現在の身長等が保険適応のボーダーラインにあり、残念ながらその時は保険が効かないと言われ、自己負担で数十万円の支払いを余儀なくされた。

「ひと昔前なら保険で通る値なんだけどね。この辺の判断は医者にもよるけれど、キリがないし、今から始めてもあまり望みは…」

この言葉が引っかけかり、調べたところ、確かに今の日本は医療保険の財政がひっ迫しており、成長ホルモンの保険適応基準は以前より相当厳しくなっている事が分かった。

「少し前の日本なら確実に保険治療ができていたのか…この自己負担額ではとても治療を続けることは難しいな…」

なんだか私には大きくなる資格が無いんだよと神につきつけられているような気がした。しかし、その後幸運にも保険治療を認めてくれる医師と巡り会えて、何とかあきらめずに治療を続けることができていた。また、私が住んでいる柏市には「子ども医療費助成制度」というものがあり、治療費や薬代のはとんどを自治体が負担してくれており、かなり助けられている。しかも有難いことに、その対象が今年度より一八歳までに引き上げられた。どういう仕組みになっているのかと思いついてみると、消費税を財源としていることが分かった。私は、今まで不満に感じていた消費税に保険という形で救われていたのだ。

この一件から、私の税金へのイメージは百八十度変わった。税金は決してお金を取られるという良くないイメージのものではなく、私たちの生活を互いに支える必要不可欠な制度なのだ。中学生の自分が納めているのは今の所消費税くらいだが、その税金はどこかで誰かの助けや応援になっていることに今回の経験を通して気付くことができた。

五年後、二十歳になれば、学生であろうと国民年金への加入が始まる。税のおかげで救われたことに感謝し、人助けの気持ちを持って税金と向き合っていこうと思う。私のように一人でも多くの人が救われることを願っている。